

CO・OP

京都の生協

2008/January/No. 64
京都府生活協同組合連合会



あんず
人・家・きもの・杏の木
——厳しさと温かさのなかで紡がれる京町家のくらし

Talk Talk トークとーく

●京・町家文化館 副館主 やまなか えみこ 山中恵美子さん

●京都府生活協同組合連合会 会長理事 こばやし ともこ 小林 智子

対談

TalkTalk

トークとーく

人・家・きもの・杏の木 あんず

—— 厳しさと温かさのなかで紡がれる京町家のくらし

京都府生活協同組合連合会 会長理事

京・町家文化館 副館主

山 中 恵美子さん
小林 智子

京都の人は、暑い夏や底冷えの冬と折り合いをつけ、ときには自然の厳しさにも美しさや楽しみを見いだしながら、お互いに助け合い、つながりあって、生きてきました。京町家には、そうしたくらしから生み出された生活文化が凝縮しています。山中油店の「質素倹約を旨とすべし」という家訓もそのひとつでしょうし、この老舗に長女と

して生まれ、町家文化の継承に力をつくす山中恵美子さんにも、そうした京都の人びとの精神性が息づいているようです。過熱気味のブームのなか、とかく「おしゃれな空間」といった表層的な扱いが目立つ町家ですが、そこにこめられた生き方にこそ、学ばべき価値があるのかもしれない。

着物の良さは、町家の良さに通じる

—— しなやかで、人にやさしい装い

小林 お着物がとてもよく似合っています。

山中 ありがとうございます

小林 もともと和服が好きなのですか。

山中 私は古い家に育ったせい
か、家も服装も洋風のものにあこがれて、着物は初釜のときに袖を通すぐらいでした。でも、着物の生地は

絹など自然素材が中心ですから、体型にそっと寄り添ってくれますし、着ていて楽なんです。あまり流行もありません。

そのことに気づいてから

は、なかなか合理的な服装文化やなあと思うようになりました。

小林 そうすると、お祖



京都府生活協同組合連合会 会長理事

小林 智子

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談 人・家・きもの・杏の木	2
「食品の信頼確保に関する消費者との意見交換会」開かれる	7
第3回きょうと食の安心・安全意見交換会	7
ぼうさいカフェ in きょうと	8
京丹後市大宮町で京都府総合防災訓練	8
地域防災学習会を開催	8
消費者支援機構関西が適格消費者団体認定記念セミナーを開催	9
改正生協法への対応にむけて学習会など活発に	9

第14回京都府生協大会	
「2007・京都・たべるたいせつフォーラム」	10
「京都の生協活動への功労者表彰式」を開催	11
会員生協NOW⑩	
同志社生協はことし、発祥110周年を迎えました	12
TOPICS	
●京都府商工部との定期懇談会	14
●京都商工会議所と懇談会を開催	14
●京都府生協連・理事長懇談会を開催	14

●第7回京都府協同組合職員体験・交流学校	14
●「Peace Now! 舞鶴」に学生ら21人が参加	14
●「北東アジアの平和」をテーマに平和・憲法学習会を開催	15
●京都府勤労者健康スポーツフェスティバルに出店	15
●関西地連大規模災害対策協議会開催	15
●京都生協がレジ袋削減で「3R推進協議会」会長賞	15
おもな行事のお知らせ	16
探訪 重要文化財 京都府庁 日本館	16



母さまやお母さまの着物をお召しになることも？

山中 よくあります。祖母の帯を締めたり、母の着物を身につけたりしていると、昔の人のくらし方や想いも伝わってくるような気がし

て、その意味では、着物の良さは町家の良さにも通じるものがあるように思えます。

小林 私はあまり着る機会はないですが、着物はいいですね。でも不便に思うことはありませんか。

山中 私は自転車が大好きで、市内のおつかいに乗って出ることが多いのですが、さすがにそのときは着物はやめませす(笑)。

着物を不便に思うのはそのときくらいですね。

京都のことをもっと知りたい！ ——海外生活で見えたこと

小林 洋風のくらしがお好きだった恵美子さんが、いまでは町家文化館の副館主をつとめていらつしや

います。町家の良さにめざめられたきっかけは？

山中 私は子どもころから、何をすることも、つねに「山中はんとこの娘」という目で見られていたのを窮屈に思っていました。商家ですから住み込みの人がいましたし、三世代同居でしたので、カギを閉めて家をカラにするということはありませんでした。友だちを見て、ただ漠

然と「カギつ子ってええなあ」と思っていました。それに英語にも関心をもっていたので、大学を卒業後、アメリカに行きました。

海外生活は、「山中はんの娘」といわれることもなく、自由な生活を満喫できて、とても楽しかったのですが、少々英語が話せても、日本人として日本のことをちゃんと話せない、とても恥ずかしいんですね。

そのことに気づくと、京都できちんと日本文化を勉強したいと思うようになって、帰国後、小学校の英語教師をしながら、同志社女子大学の大学院に社会人入学をしたんです。

それ以前から、「私の家は平安時代の御所にあたる内裏の近くにある」ぐらいのことは知っていましたけれど、指導してくださった先生に「君は、君が育った家そのもの

の研究テーマにすべきではないか」といわれて、あらためて実家に残っていた古文書を調べたり、平安朝と現代の位置関係を重ねたりしてみました。

すると、だんだん昔のくらしの気配を感じるようになって、「昔の人たちが残してくれたものはものの上にいるの私らのくらしがあるんやな。私もそれを大事にして、後の人たちに伝えていきたいなあ」と思うようになったんです。



京・町家文化館 副館主

山中 恵美子さん



工夫を楽しみ、感性を磨く

——自然を取り込む京町家のくらし

小林 町家にしても着物にしても、

山中 床下が空洞なので風が動くんです。

それには、京都の近辺で育った木を、何年もじつくり乾かしてから一本ずつ組み上げていきます。京都の気候風土で育った、京町家にいちばん適した木なんですよ。

小林 ご実家の山中油店では、食用油だけでなく、建築用の油も扱っておられるとうかがいました。

山中 荏胡麻油、桐油、菜種油など、いろいろ扱っています。こういう自然素材の塗料は、シックハウス症候群の心配ありませんし、木の呼吸を妨げないといわれ、体にも環境にもやさしいんです。

小林 そうすることで、自然をシャットアウトするのではなく取り込む家になるんですね。

山中 夏はクーラーをつけなくても過ごせますが、冬は寒いし、不便なところもあります。でも、それを少しでも快適になるように、一生懸命に工夫するんですね。それも苦労と思わず、逆に楽しんでしまう。最近では便利になりすぎて、工夫や知恵をはたらかせて快適さをもとめることが少なくなりました。

小林 そういえば、夏はふすまを外して、蓐障子に替えたり、お部屋のしつらえも変わりますね。

山中 現代風の新しいお家はエアコンのスイッチひとつで夏になるとり冬になったりしますが、町家はそれができない代わりに、床の間の掛軸や置物を季節ごとに替えたり、着物の柄に季節感を取り込んでりしてきました。

そういう工夫のなかで繊細な美意識や感性がうちかわれ、だんだん深みのある京都文化が形成されたのではないかと思いますね。

カフェやレストランに改装されるお家が増えてきたけど、階段や廊下の上質な木の上を女の人の堅くて細いヒールで歩かれたりすると、「そんなコッコツイわして歩かんといて。家は痛いって泣いてるのどちがうやろか」と思ったりするんです。家は

何もいいませんが、ほんまはいい

小林 いろいろかがっている町家は包容力があって、住む人に合わせてくれる建物だなあと感じます。

山中 でも、家のほうが人間の都合に合わせすぎて、つらい思いをしているのではないかと、かわいそうなお気もします。

小林 たえば？



築百年の町家を、化学塗料を使わず、紅殻・荏胡麻油・柿渋などの自然塗料で改修した「ショップ&カフェ綾綺殿」にて



たいことがいっぱいあるのところがやるか。私にはそんな声が聴こえてくるような気がします。

小林 たんに「町家」という形だけを残すのではなくて、町家で紡がれてきた生活文化をちゃんと受けとめないと、もつたないですね。

山中 そう思います。町家にしても着物にしても、昔はとても手間をかけてつくらはったから、

使い捨てにせず、自然と大事にあつたんじゃないかと思えますし、そういうくらし方の知恵や姿勢のようなものは見直すだけの価値があると思いますね。

小林 いまは、「どんどん生産して、どんどん消費して、どんどん捨てる、そんな生活はやめよう」という機運が高まっていますから、リサイクルして何代も住みつづける町家から学ぶことは多いと思います。

ういとお考えで京・町家文化館を開かれたんですか。

山中 そうですね。どんなに町家文化がすばらしくても、その意味がきちんと伝わらないと、大事にしようという気持ちになっていただけないでしょうか？ 私も、大学院で平安時代の地図を現代の地図と重ねたりして勉強しているうちに、だんだん昔の人の声が聴こえたり、気配を感じられるような気になりました。

ですから、いまの若い人も、実際に町家にふれてもらって、ていねいに語りかけていけば、町家からのメッセージをちゃんと受けとめてくださるのではないかと思うんです。

小林 博物館のようにして見せるだけとか、黙っているだけでは、なかなか伝わりませんものね。

山中 私の場合は、たまたま実家が古い商家で、三世代同居で、町家も着物も「あるのが当たり前」という環境に育ちました。いまはそんな生活をする人は少なく、私にとつて日常的だったものが、非日常的な

ものになっています。ですから、あえて言葉でちゃんと伝えなければと思うんです。

小林 なるほど。最近では行政とも連携なさっていますね。

山中 上京区役所からお話があつて、上京歴史探訪館を併設しました。上京区の歴史や情報の発信拠点として、また京町家の生活文化を伝える仕事は、私ひとりではできないことではありませんので、行政や地域の方がたといつしよに取り組んでいきたいと思っています。

小林 公開講座もそういう趣旨で開かれているんですか。

山中 同志社女子大学と共催で、絵画・お香・落語などいろいろな角度から「京町家で学ぶ京都の歴史と文化」というテーマに迫れるように企画しています。これをきっかけに、若い方がたが京町家のくらしや景観に関心をもつてくださったらとてもうれしいですし、私としてはその橋渡しをつとめられたらと思っています。

いろいろな人に見守られて育つ子どもたち 人となりが、モノを慈しむくらしのなかで

小林 こうして座っていると、紅殻格子も風情があつて、いいですね。

山中 見た目の風情だけでなく

て、実際、紅殻格子は外がよく見えるでしょう？ でも、外からは内側が見えにくいんです。京都の人は、

そうやって最低限のプライバシーを

守りながら、さりげなく表を通る人を見ています。

小林 それで、ご近所の方も「あつ、いま恵美ちゃんが通らはつ





た」ということになるわけですね(笑)。

山中 そう(笑)。若いころはそれがわずらわしかったんですけど、そういうくらしのなかで自然に、ご近所とのほど良い距離の取り方やふるまい方を教えられたような気がします。ご近所とは持ちつ持たれつの関係がありますし、町家の生活が当たり前前にあつたころは町内のコミュニケーションも自然にとれていたのだらうと思いますね。

それに、家の仕切りもドアではなくて一枚のふすまですから、知らず知らず、人への気づかい方が身につきます。とくに「だいどこ」(食堂兼居間)は、祖母や両親など、いつも家族の顔が見えるところで、そこを通らないと奥の部屋へは行けません。人の目がある分、「いま子どもが何をしてるかわからへん」ということもありませんでした。

小林 町家は子育ての面でもすぐれた機能をもっているんですね。やっぱり人とのつながりやコミュニケーションは、安心できるくらしの基礎だと思えます。生協も「くらしの安心づくりはコミュニケーションから」ということで、組合員どうしでも自由に話し合う「おしゃべりパーティー」を開いたり、商品を配達するときに、高齢の組合員の方の安否確認や子どもたちの見守りと

いったことも期待されています。生協の活動について感じておられることがありましたらお聞かせください。

山中 私は、お料理をつくることもいただくことも大好きです。で、食材選びもけっこううるさいんですよ(笑)。その点、生協は食べものの安全面でも心配りをしてくださっているので安心できますね。

小林 ありがとうございます(笑)。やっぱり、おばんざいは定番メニューですか。

山中 そうですね。このあたりはいまでも上賀茂のほうからお野菜の振り売りに来てくださるし、季節の野菜でよくお料理します。若いころは、とくにお盆になると、8月13日の朝から16日の朝まで精進料理の連続ですので、「毎日こんな脂っ気のないもんばかり…。かなんなあ」と思っていましたけど、いまは「京都の家庭料理は、体にもよくて、手をかけていいねいにつくる料理法なんや」としみじみ思います。

小林 そういえば、山中油店の家訓は「質素儉約を旨とすべし」だとか。

山中 それは初代の教えで、竹製の雨樋がそれを象徴しています。いまだき竹製のほうが維持費が高つくきますけど(笑)。先祖に感謝しつつ、季節ごとの行事は守っています。



お正月の門松やしめ縄は手づくりで、各部屋や水回り用の「ちよろけんさん」は100個近くつくります。庭に、樹齢200年以上といわれる杏の古木があります。この木は、いまもわが家の庭で生きていて、6月になると実をつけてくれます。長い間、山中家のくらしぶりを見守ってくれてるんやなあと思うと、思わず語りかけたくなりますね。

小林 人も家も着物も木も、みんな命あるもの。それを大切にしてくらしのなかで京都の生活文化が受け継がれてきたのですね。生協としても温かなつながりと伝統を守るお手伝いができたらと思っています。今日はどうもありがとうございます(笑)。

(写真撮影・有田知行)

山中恵美子さんのプロフィール

「山中油店」の長女として生まれる。同志社大学英文科を卒業後、アメリカ・オランダ等で4年間を過ごす。帰国後、通訳・英語の教師のかたわら、同志社女子大学大学院に入る。京都文化専攻。現在は、「京・町家文化館」副館主、「上京歴史探訪館」副館長として文化的活動に尽力。また、大の料理好きで、創作料理コンテストで最優秀賞を受賞した。



「食品の信頼確保に関する消費者との意見交換会」開かれる

若林正俊大臣があいさつ、小林智子府連会長が出席



若林正俊農林水産大臣

京都府のほかに、食品事業者もくわえ、8人が出席し、意見をのべました。

業者間取引にも品質表示義務

2007年11月10日、京都市内で、農林水産省「食品の信頼確保に関する消費者との意見交換会」が開かれました。偽装表示など食品の「信頼」にかかわる事件がいろいろあるなか、「安心で質の高い暮らしの実現にむけての総点検をすすめる」一環として、農林水産省の主催により開催されたもの。

若林正俊農林水産大臣は冒頭、「国民生活の基本である『食』分野について国民生活の安全・安心を確保するための検討をすすめるにあたり、消費者・生活者の視点からの声をうかがいたい」との主旨であいさつされました。

小林智子・京都府生協連会長理事、あざみ祥子・コンシューマー

だ」とのべました。

先進的な京都の取り組み

食品事業者として出席した野村善彦・京都食品産業協会会長は、京都ブランド食品認定・品質保証事業や京都信頼食品登録制度にもとづく「食品の安心・安全」の取り組みについてのべ、「京都の先進的な事例を全国にむけて発信していきたい」と発言しました。

消費者関係について

小林智子会長は「消費者にとつて表示は商品選択にとつてもっとも重要な情報であり、それが揺らいでいることはたいへん残念」と指摘。つづいて「罰則や取締りの強化だけでなく、消費者と事業者、そして行政とともに、よりよい関係づくりをしていくことが大切

これをうけて若林大臣からは「食品産業は多様で、中小零細な企業が担うことで豊かな食生活が可能となっており、業界内部で、あるいは消費者と一体となって努力している業者にたいして社会的評価をくわえて信頼を回復していくことが必要である」という旨の発言がありました。



意見をのべる小林会長

第3回きょうと食の安心・安全意見交換会

2007年10月24日、京都府食の安心・安全プロジェクト主催による第3回きょうと食の安心・安全意見交換会が開催されました。参加者は京都生協、コンシューマーズ京都、京都消費生活有資格者の会など11人で、京都府生協連からは廣瀬理事、坂本事務局長、川端事務局担当が出席しました。



京都府農業資源研究センターで開催

今回は、精華町にある京都府農業資源研究センターが会場。同センターは、遺伝子工学等の最先端のバイオテクノロジー研究をおこなっている大学の基礎研究部門（京都府立大学大学院農学研究科）と行政の応用研究部門（京都府農林水産部）の試験研究機関が一体となり、日本で初めて学公が一つとなった組織をもつ研究機関として、1997年に設立されました。

並木隆和センター長のあいさつのち、業務の紹介・施設見学をうけて、遺伝子組換え技術などを活用しての伝統野菜や豆類の品質改良と新品種の育成、

微生物を利用した環境にやさしい病害防除技術の開発などをテーマに意見交換しました。

参加者からは「消費者の関心が高いテーマであり、映像をふくめたわかりやすい説明をしていただいた」「農業についての認識があらたになった」「遺伝子組換え食品と聞くと、怖いイメージがあったが、その技術活用についての認識がふかまった」などの声がありました。京都府の各研究機関・施設の見学をかねた意見交換会が回を重ねられてきたことにより、食の安心・安全にかかわる行政施策についての消費者の理解がすすんできたことがうかがえます。

内閣府・災害被害を軽減する国民運動のよびかけにこたえて

ぼうさいカフェinきょうと

京都でもいつかはわからな
いけれど地震は必ず起こると
いわれます。地震にたいする
府民の関心にこたえ、200
7年10月31日、ハートピア京


都にて、内閣府・日本生協
連・京都府生協連の主催で、
「ぼうさいカフェinきょうと」
を開催しました。この取り組
みは、災害被害を軽減するた
めの国民運動のひとつとして、
内閣府が2007年度全国10
カ所で開催を予定しているも
ので、京都での開催は5番目。
京都生協くらしの助け合いの
会はじめ、8グループ・50人
が参加しました。開催にあた

って京都府、京都市、京都新
聞社、NHK京都放送局、K
BS京都の後援をいただきました。
した。

講師には、日本生協連中央
地連大規模災害対策協議会世
話人(ちばコープ理事長スタッ
フ)の水島重光さんをお迎えし、
日本生協連震災担当の亀山薫
さんに進行していただきました。
地震が起きたとき、自分
の住んでいる街をより詳しく
知っていることが「減災」に
つながります。お二人の楽し
いリードで「カフェ」気分
で楽しく学びあうことができました。
水島さんは、12年前の

阪神・淡路大震災時、コープ
こうべデイズ西宮店の副店長
をされており、そのときの経
験が講師活動に生かされてい
ます。

内閣府はじめ、大阪府、京
都市消防局など5人の方も見
学されました。
参加者からは「いろいろ、
わからないことや、知らない
ことが多かった。とてもため
になった」「阪神大震災のとき
の生なましい体験をもとにし
た話は、口先だけの防災では
なくたいへん参考になった」
など、たくさん感想が寄せ
られました。



内閣府「ぼうさいカフェ」
ホームページでも
紹介されています。



講師の水島重光さん



自分たちの地域の避難場所は？病院は？スーパーは？...



中央でマイクを持っているのが亀山薫さん

事前に地域防災学習会を開催



2007年7月13日、京都府総合防災訓練に先立ち、丹後広域振興局、京丹後市総務課・消防署の協力で、京都生協丹後行政委員会と生協連の共催で「丹後地域防災学習会」をひらき、14人が参加しました。



「防災食」の試食も好評でした！



▲生協とJAのテント

生協のトラックの▶
入場



急支援助物資の牛乳とお茶を会場で配りました。また、生協とJAから18人が京都府災害ボランティアセンターの現地センター立ち上げ・運用訓練に参加しました。

2007年8月26日、「隠岐トラフを震源とするマグニチュード8.0の大地震が発生した」という想定のもと、京丹後市大宮町・丹後織物工業組合中央加工工場グラウンドをメイン会場に京都府総合防災訓練がおこなわれました。

京都府生協連は、京都府との「応急対策物資協定」にもとづき、応急支援助物資の調達・搬送・配布の訓練にJAグループとともに参加しました。京都生協、府庁生協などの組合員・役員20人が参加して、JAグループのみならずといっしょに、応急支援助物資の牛乳とお茶を会場で配りました。また、生協とJAから18人が京都府災害ボランティアセンターの現地センター立ち上げ・運用訓練に参加しました。

京丹後市大宮町で 京都府総合防災訓練



子どもたちから山田知事にお茶を渡しました

消費者支援機構関西が、 適格消費者団体認定記念セミナーを開催

消費者支援機構関西(KC、s、
llケースーズ)は、2007年

10月15日、エルおおさか南ホ
ールにて、適格消費者団体の
認定を受けたことを記念し
て、「消費者支援機構関西が
めざすもの」をテーマにセミ
ナーを開催。消費者・事業
者・行政担当者あわせて17
0人が参加しました。

北川善太郎会長のあいさつ
につづき、黒木理恵KC、s、検
討委員会委員長よりKC、sの
これまでの活動について、と
くに事業者への申し入れ活動



パネルディスカッションがおこなわれました。

の内容とその成果を中心に報
告がありました。

パネルディスカッションで
は、パネリストに、高巖氏
(麗澤大学企業倫理研究セン
ター長)、蔵本一也氏(消費
者関連専門家会議理事長)、
小林智子氏(京都府生活協同
組合連合会会長理事)、坂東
俊矢氏(京都産業大学法科大
学院教授、KC、s常任理事)

をお迎えして、片山登志子K
C、s副理事長のコーディネート
により、①消費者から見た
消費者団体訴訟制度への期待
とKC、sの役割、②事業者に

とつての消費者団体訴訟制度
の意義とKC、sの役割という
2つのテーマを中心に議論が
展開されました。「悪質事業
者の不当な行為をどのよう
にして是正していくか」「公
正な取引をめざす事業者との
間で、どのような連携が可能
か」「消費者の期待にこたえ、
透明で公正な取引社会の実現
のために、KC、sは今後どの
ような役割の発揮と活動をお

こなうべきか」など、多くの
論点を取り上げられ、意見交
換しました。KC、sには、小
峰耕二京都府生協連専務理事
が理事に就任しています。

京都消費者契約ネット ワーク、適格消費者団体 の認定を内閣府に申請

京都府生協連も加入してい
る京都消費者契約ネットワー
クは、内閣府に適格消費者団
体の認定にむけて申請をおこ
なっています。

京都消費者契約ネットワー
クは、京都で消費者契約にか
んする問題に取り組むNPO
法人として、2001年12月
に設立。消費者、消費者団体、
消費生活相談員、学者、司法
書士、弁護士などで構成され
ています。消費者全体の利益
のために、事業者への申し入
れ活動などを積極的におこな
っており、小峰耕二京都府生
協連専務理事が副理事長に就
任しています。

改正生協法への対応にむけて学習会など活発に

2007年衆参両院で改正生
協法が全会一致で可決され、2
008年4月1日から施行され
ることとなりました。これをう
けて、各生協では改正内容につ
いて理解をふかめようと学習会
がさかんに開かれています。

9月6日に開かれた日本生協
連主催による「改正生協法説明
会」には、会員生協はじめ各府
県の行政担当者もふくめて35
0人が参加しました。

時代を先取りする姿勢で、 日本生協連・山下俊史会長

冒頭あいさつに立った日本生
協連・山下俊史会長は「法改正
の基本的な考え方を前向きにう
けとめ、みずからのものとして
いくということが重要だ」との

べ、つづいて「法的な義務が課
せられる課題であれ、任意の課
題であれ、生協に『何を社会が
要請しているか』をうけとめ、
先取りしていく姿勢でのぞむこ
とが大事だ」と強調しました。

説明会では、改正生協法の概
要と対応課題の全体像について
品川尚志専務理事が報告、つづ

いて宮部好広改正生協法対策室
長が改正法の内容についての詳
細を説明しました。

府連では小委員会設置対応

京都府生協連では、改正にい
たった背景・経過について会員
生協とともに認識をふかめなが
ら、改正法の施行にさいして、
「法改正の基本的な考え方にも
とづいた組織運営の強化」を大
きくすすめることとし、理事会
内に「改正生協法対応検討委員
会」を設置したほか、理事会で
毎回、議論をおこなっています。
こんご、監事・役員研修会
を2月13日に開催するほか、京
都府行政との懇談の場をもつな
どを計画しています。



2007年9月6日に開かれた改正生協法説明会

「たべるたいせつフォーラム」

をテーマに開催



来賓あいさつをされる京都府商工部消費生活安全センター 但馬幸伸センター長



開会あいさつをする小林智子会長理事

2007年11月7日、ハートピア京都(中京区)で、「2007・京都・たべるたいせつフォーラム(第14回京都府生協大会)」を開催。ことは「食育」と「食の安全」をテーマに165人が参加しました。

農林水産省近畿農政局、京都府、JA京都中央会、(社)京のふるさと産品価格流通安定協会、(財)生協総合研究所から後援をいただきました。

「2007・京都・たべるたいせつフォーラム」は、京都府生協連・笠谷敏子理事の司会のもと、小林智子会長理事の開会あいさつ

ではじまり、京都府商工部消費生活安全センター 但馬幸伸センター長より、京都府山田啓二知事のご祝辞をご披露いただきました。

活動報告

食育 く生協が取り組んでいること

「子どもの食育」

京都生協・常任理事 齋藤紀子さん

「京都生協のたべるたいせつ」の取り組みのなかから、食育プログラム①「大豆のすべてを知ろう!」めざせ、大豆博士!」の紹介がありました。子どもたちが実際に生産地に行き、ワクチン苗や害虫駆除の説明を受け、収穫体験や石臼で挽いたきな粉できな粉あめを作ったことなどが報告されました。ついで食育プログラム②として、京田辺地域で「夏休みの宿題ゲットだぜ!」をサブテーマに、大豆の学習や「水」が大切

であること、環境の問題にもふれた取り組みの報告がありました。2007年度から新しくはじまった小学生とその家族を対象にした通信型食育プログラム「キッズクラブ」の取り組みについても紹介されました。



京都生協・常任理事 齋藤紀子さん

「大学生の食育」

大学生協 京滋・奈良地域センター 中谷志帆さん

朝食を食べない、一日一食、お菓子でエネルギーを補うなど、大学生の食生活の実態が紹介されました。こうした実態をふまえ、大学生協では、カフェテリア方式にして自分が必要と思うものを選べるようにしたこと、レシートでの栄養表示、食生活相談会やお料理教室の開催など、「組合員一人ひとりの食の自立」をめざしていることが報告されました。また、生産地に行き生産者の話を聞く産地訪問ツアーや、大山乳業訪問研修な

ど「食の安心・安全」の取り組みについても紹介されました。中谷さんは「自分の体は自分が食べたものでできているのだとの意識をもってもらい、継続した食生活の提案をおこなっている」のが大学生協だとのべられました。



大学生協 京滋・奈良地域センター 中谷志帆さん

第14回 京都府生協大会

「2007・京都・ 「食育」と「食の安全」

フォーラム後半は、社会派落語では上方落語界きつての実力者である桂福車さんによる落語で、演題は「食の法則」。ストーリーは「脱サラして弁当屋をはじめた山田太郎。開店直後は千客万来だったが、安全無視・添加物いっぱい、食材使用が知れ、客足はパッタリ。このままでは倒産必至。はたして起死回生策は……。」というもの。

食品表示の偽装があいつぎ、食にたいする消費者の不信が高まっているなか、食品添加物やその表示にかんする問題点が笑いのなかにか巧みに盛り込まれた内容でした。参加者からは「楽しみの落語。すっきり夢中でできき、よく添加物のことを研究されているのを面白い



桂 福車さん

落語

桂福車「食の法則」

会場は笑いの連続



熱心に報告を聞き入るみなさん

「高齢者の食育」

京都生協くらしの助け合いの会は、高齢者への配食活動の取り組みについて報告しました。1989年に第1回左京お食事会が始まり、最初の配食は90年1月から。93年には月3回の配食と月1回のお食事会をしていることから、日生協より「ゴールドプラン」のモデル地域に指定され、保健所の指導のもと、日生協からの補助もあり調理室を改装し、エリアの拡大をしました。96年には月4回の配食になり、2000年からはさらにエリアも拡大、現在は毎回110食をこえる利用があります。貴島さんは「食を守るのは生協活動



京都生協くらしの助け合いの会 貴島ひろ子さん

の原点であり、使命だ」とのべられ、配食をつづけていくために生協の組合員、大学生協など生協のネットワークづくりを進展させたいと抱負を語りました。配食活動をとおして、助け合いの会員にとっても、援助をうける側にとっても、広い意味での「食育」の機会となっていることが報告されました。

京都生協 くらしの助け合いの会 貴島ひろ子さん

「京都の生協活動への功労者表彰式」 開催

2007年11月7日、レストランおおたや（中京区）で「2007年度京都の生協活動への功労者表彰式」を開催しました。

京都府生協連の表彰制度にもとづき毎年おこなわれているもので、ことしは各会員生協から29人のみなさんが推薦されました。表彰式当日は、小川正さん（京都府庁生協）はじめ14人の功労者のみなさんが出席され、小林智子会長理事より表彰状と記念品が授与されました。小山敏子常任理事（府庁生協総括常任理事）、沼澤明夫常任理事（大学生協事業連合専務理事）、酒井克彦理事（立命館生協専務理事）、中森一朗京大生協専務理事にも同席いただきました。



小林会長を囲んで功労者のみなさんと記念撮影

同志社生活協同組合／大鉢 おおはち 忠理事長 ただし をたずねて

同志社生協はことし、 発祥110周年を迎えました

同志社生協は2007年設立50周年、2008年発祥110周年をむかえました。今回は、同志社大学京田辺キャンパスに大鉢忠理事長をたずねました。

広大なキャンパスを散策・案内していただきながら、設立50周年記念企画のこと、夢・抱負などについてお話をうかがいました。三宅智巳専務理事にも同席いただきました。



小林智子会長理事

同志社生協の歴史・前史

小林 同志社生協は、07年で設立50周年、08年で発祥110周年とお聞きしましたが、記念すべき年にインタビューできてうれしく思います。



大鉢 忠理事長

大鉢 ありがとうございます。生協法により法人格をえた同志社生協の設立は1957年11月です。この節目に近隣の京都地区の大学生協がどのように育ってきたかをまとめるべく、京都事業連合のご賛同をいただき、07年4月から同志社大学人文科学研究所に3年間の研究プロジェクト「京都地域の大学生協の総合的研究」をスタートさせています。かわりのあった方がご健在のうちに「京都地域の大学生協史」としてまとめたかと考えています。

小林 記録に残すことは、大切なことですね。

大鉢 少し歴史をお話しますと、設立以前にも先輩方による生協活動はおこなわれております。



三宅智巳専務理事

まずは、新島襄校長時代に同志社英学校を卒業された方ですが、早稲田大学の教授で社会民主党党首、さらに「学生野球の父」と称されておられる安部磯雄先生が同志社尋常中学部の教頭時代の1898年に学生消費組合を同志社ではじめられました。これがわが国における最

初の「学生消費組合」といわれており、2008年に発祥110周年になります。その後をうけて大正時代に「同志社購買組合」が、そして社会的キリスト教運動推進のメンバーを中心に「同志社消費組合」と学生生活の支援が続ききました。第2次世界大戦の終戦直後1951年には安部磯雄先生の実践を基底に嶋田啓一郎教授（初代全国大学生生活協同組合連合会会長で19年間会長職）、駒井四郎厚生課長（後に総務部長）両氏を中心に「同志社大学協同組合」が組織されています。

このような前史をふまえて、生協法にもとづき1957年に嶋田啓一郎理事長、横関武専務理事体制で「同志社大学消

費生活協同組合」創立総会が開催され、現在にいたっています。小林 京都生協は1964年に産声をあげたんですが、はじめのころは同志社生協の一室を借りて特販部として御用聞きをして商品をお届けしたそうです。43年たつて組合員は45万人を数えますが、同志社生協なくして京都生協はなかったといえる関係なんです。

50周年記念企画

小林 ところで、50周年ということで、どんな記念の取り組みをなさったんですか。

三宅 07年の総代会で、設立50周年記念の取り組みとして「学校が活気づく企画の募集」企画を実施しました。学生から出てきたアイデアに「地域の方と同志社生協との交流企画」というのがあり、「京田辺まつり」で学校を地域の人にも開放しました。



50周年グッズの西陣織のアクセサリーケース(左)と名刺ケース

そこで地域から参加していた京都生協の組合員が、学生の説明を聞いて、乗り気になってくださり、翌日には献立やレシピが送られてきて、「やましろ弁当」が実現したのです。文化祭11月19日創立祭「アダム祭」(今出川キャンパスのイブ祭に対し、昨年命名された)で「やましろ弁当」はあつという間に売り切れました。

小林 京田辺の京都生協の組合員さんたちから「すごく楽しかった」という声を聞いています(笑)。三宅 ほかに50周年の記念事業として、同志社生協が事務局となり、NPO法人の産官学連携支援ネットワークと連携して、京丹波の地域の活性化につながるイベントをおこないました。12月上旬に、丹波ワインを使って「京丹波わいん大学in同志社キャンパス」として教職員を集めて寒梅館7階のレストラン・セカンドハウスウィルで開催し

ました。それとつながった構想で、同志社オリジナルのたとえば、丹波の黒豆ポタージュの開発や京丹波の物産店などもありました。また同志社生協50周年記念グッズも作りました。

小林 それはどんなものですか？大鉢 京都らしい伝統を生かしたものと、西陣織でつくったアクセサリーケースと名刺ケースやロゴ入り腕時計を数量限定で販売しています。一部新聞でも報道されて注目されました。

小林 それも学生さんからのアイデアだったんですか？大鉢 そうです。ちよつと高価なのでたくさん売れるというものではないかもしれませんが、宣伝にはなっています(笑)。

キャンパス再編への対応

小林 これからの生協としての課題は？

大鉢 現在は1、2回生がこの京田辺キャンパスで学び、工学部と文化情報学部の学生さんを除き3、4回生は今出川キャンパスに通っています。ところが、2010年に今出川にある同志社中学校が岩倉に移転しますので、その跡地を整備して、2013年から今出川キャンパスは人文系と社会科学系キャンパスとして、京田辺キャンパスは文化情報、理工学部に加

えて、新しく設置される、生命医科学、スポーツ健康、心理学部の理工系キャンパスとしてキャンパス再編がおこなわれます。それにあわせて生協の対応がとめられています。

小林 生協も一定の投資をともなうでしょうから、たいへんですね。大鉢 学内には生協以外にレストランや喫茶店などの業者さんも入っています。食の好みは人それぞれですから、食堂部門すべて生協が対応すべきとは思いません。ただ、大学は日曜日

が休みで、春・夏・冬には長期の休みがありますので、われわれや一般業者の方には営業時間の点で苦しい状況だと思います。大学、生協、業者のお互いが共存共栄できるためには、休みの日でも学内にたくさんの方が集まるような工夫が求められていると思っています。

小林 そうですね。これだけの施設を学生のためだけではなく、地域に開放して地域といっしょにいろいろ取り組みたいですね。

今後の夢・抱負は

小林 生協がどのような役割をはたしていくのか大きな課題だと思のですが、夢や抱負などをお聞かせください。

大鉢 学生にとって、大学が自分の生活の場になればいいと考



ですから、生協がお手伝いできることが大切です。そのためには、大学・学校、保護者とのよい関係づくりが必要になると思います。

三宅 スポーツクラブの学生たちから要望のあったアスリート食を、次年度から大学の食堂ではじめることにしました。体育系のスポーツ健康科学部もできる予定です。大学も変わっていくので、生協も大学の期待に精一杯こたえていきたいと考えています。

小林 今後ますますのご活躍を楽しみにしています。本日はキャンパスの中もご案内いただき、ありがとうございます。

同志社生活協同組合

代表者/理事長：大鉢 忠 専務理事：三宅 智巳
所在地/京都市上京区烏丸通今出川上る玄武町601
☎075-251-4430 ☎0774-65-8371(京田辺校地)
事業高/444,697(万円)
組合員数/34,335人
設立年月日/1957年11月18日
<http://www.doshisha-coop.com>

戦前の同志社消費組合の伝統をふまえ、1957年に同志社大学消費生活協同組合として創立され、58年に法人化。97年には同志社女子大学などの事業も増えてきたのをうけ同志社生活協同組合と改称。今出川、京田辺の二拠点で活動している。

京都府商工部との定期懇談会

2007年8月8日、京都府公館で京都府商工部と京都府生協連との定期懇談会が開催されました。

京都府からは山下晃正商工部部長、但馬幸伸商工部消費生活安全センター長、平岡正和副センター長、原田規子主幹が出席。京都府生協連からは小林智子会長理事、平信行副会長理事、小峰耕二専務理事、沼澤明夫常任理事、佐藤京子常任理事、小山敏子常任理事、福田晶昭京都生協役員室長のほか、事務局が出席しました。

2007年度の重点課題について、行政・生協の双方から報告があったのち、生協法の改正と対応、大学生における消費者被害の発生状況、団体訴権制度の施行と対応などについて意見交換しました。



山下晃正商工部部長

京都商工会議所と懇談会を開催

2007年8月29日、京都商工会議所3階会議室にて、懇談会を開催しました。



京都商工会議所
奥原恒興専務理事

京都商工会議所からは、奥原恒興専務理事、龍不可止理事、中小企業経営相談センター統括、坂口俊一所長、町田徳男副所長、西田敏光課長が出席され、京都府生協連からは、平信行副会長理事、小峰耕二専務理事、佐藤京子常任理事、小山敏子常任理事、坂本茂事務局長、牧野内孝子事務局次長、川端浩子事務局担当が出席しました。

京都商工会議所から、①京都の地域経済の動きや特徴、中小企業の実況や課題 ②今年度の京都商工会議所の取り組みや事業について報告いただきました。京都府生協連からは、①京都の生協の概況、事業の特徴、「食の安全」「消費者政策」等の取り組み ②生協法改正課題について報告しました。その後、双方の取り組みについての質疑や意見交換をおこなっていました。

京都府生協連・理事長懇談会を開催

生協法改正をメインテーマに、2007年8月29日、コープイン京都で開催しました。あわせ



(財)生協総合研究所・
藤岡武義専務理事

て、会員生協の理事長・専務・常務のみなさんの日ごろの問題意識や、会員生協の2007年度の活動課題等を交流しあいました。

(財)生協総合研究所専務理事・藤岡武義氏を講師に迎え、「生協法改正の意味するもの」と題して、生協法改正の背景や意義、法改正の内容、こんごの生協の課題などについてお話しいただきました。

第7回京都府協同組合職員体験・交流学校

2007年9月20～21日、京都府協同組合職員体験・交流学校が亀岡市・南丹市で開催されました。主催はJA中央会、森連、漁連、生協連で構成する京都府内協同組合連絡協議会。京都府内の協同組合に働く職員が、おたがいの活動内容の理解や交流をふかめ、連携をつよめることを目的として2000年度より開催されています。

今回の当番はJA中央会。「京都の農産物の生産・流通を学ぶ」をテーマに、農業振興の取り組みについての講演や、畜産・酪

「Peace Now! 舞鶴」に学生ら21人が参加

11月17～18日、大学生協京滋・奈良地域センター主催で「Peace Now! 舞鶴」を開催しました。「ふだん自分たちが住んでいる地域にある平和問題を考えてもらい、平和を考えるきっかけを得る」という企画コンセプトのフィールドワークでした。学生・教員・生協職員と現地で案内してくださった方をふくめ21人の参加がありました。

1日目は、大江山ニッケル鉱山を視察し、日本中国友好協会の桐畑米蔵さんから大江山での出来事を話していただき、中国人拉致・強制労働の実態などを学びました。五老ヶ岳展望台では、舞鶴平和委員会の橋本安彦さんより東舞鶴湾の島には弾薬庫があるなど説明がありました。

2日目は、浮島丸事件について追悼する会の会長で、殉難の碑を建てた余江勝彦さんの説明をうけました。引揚記

念館では立命館大学国際平和ミュージアムでもガイドをされている廣橋澄子さんに案内していただき、シベリア抑留により、海外での生活を余儀なくされた日本人の実態などを学びました。ついで、舞鶴湾を遊覧し、自衛隊の護衛艦を間近に視察しました。

参加者から、「はじめて知ることが多かった、もっと知りたい」「過去にあったことをしっかり話せる大人になりたい」といった感想が上がり、平和について考える機会が得られました。

(大学生協京滋・奈良地域センター 学生事務局 佐藤真輔)



大江山ニッケル鉱山にて



引揚記念館で廣橋澄子さんの解説を聞く



舞鶴湾に配置されている自衛隊護衛艦

「北東アジアの平和」をテーマに 平和・憲法学習会を開催

京都府生協連では、2007年度に連続3回の平和・憲法学習会を計画しています。2回目は、07年10月20日、キャンパスプラザ京都にて、京都医療生協、乙訓医療生協、やましろ健康医療生協の3医療生協が企画母体となり、「核廃絶へのたしかな道筋をどうつくるか」北東アジアの平和づくりとモンゴルの最新事情」と題して開催しました。講師には、浜広信氏（核戦争防止・核兵器廃絶を訴える京都医師の会代表世話人）と望田幸男氏（同志社大学名誉教授）のお二人をお招きしました。

浜先生は、北東アジアにおける非核兵器地帯化を展望して、モンゴルが2000年に「単一国家非核地帯化」を実現し、大統領が先頭になって推進していることを報告されました。

望田先生は、「世界には5つの非核兵器地帯条約（ラテン・

アメリカ、アフリカ、オセアニア、東南アジア、中央アジア）がある。その特徴は、自分の国はこれからも核は保有しないし、核保有国に対しては「核兵器を使うな」と約束させること。「使えない地域」を広げることがやがて地球レベルの核兵器廃絶につながる。日本には「非核3原則」があり、韓国と北朝鮮は「朝鮮半島非核化共同宣言」（91年）があり、日本・韓国・北朝鮮（モンゴルも入れて）による北東アジアの非核兵器地帯条約は現実的足場を持つている」と力説されました。



開会あいさつをする佐藤京子・やましろ健康医療生協理事長（府連常任理事）



望田幸男氏



浜 広信氏



大人も子ども「卵つかみ」に挑戦、最高は9個！

2007年10月14日、丹波自然運動公園で、京都労働者福祉協議会主催・京都府勤労者健康スポーツフェスティバルがおこなわれました。京都府生協連は昨年につづいて（株）ナカデケイランの協力で模擬店を出店。お楽しみ企画として「卵つかみ」とおにぎり・ゆで卵の販売をおこないました。



紫ずさんの収穫を体験しました

農関係施設の見学、黒豆の枝豆「紫ずさん」の収穫・選別・袋詰め体験など、日ごろできない体験内容に参加者のみなさん

京都府勤労者健康スポーツフェスティバルに出店

は大満足でした。各協同組合から24人が参加しました。

関西地連大規模災害対策協議会開催

2007年11月21日、大阪にて関西地連管内の12府県生協連・事業連合・単協等の防災担当者など約70人が参加して開催されました。3つの事例報告を学び、グループ討議で意見交流しました。

事例報告の1つめは石川県生協連・表重雄専務理事による「能登半島地震災害の取り組み報告」、2つめは日本生協連・亀山薫震災担当による「新潟県中越沖地震対応」『広域連携』のあり方整理に向けて、3つめはコープこうべ・佐藤正美総務部防災担当顧問による「阪神・淡路大震災とコープこうべ」で、いずれの事例からも生協が果たした役割の大きさが伝わる報告でした。

グループ討議のテーマは、「事例報告から学んだ自生協（府県連・事業連合・単協）の実践課題は何か」「府県連と単協との連携をどう構築するか」で、9グループに分かれて意見を出し合いました。



熱心に話し合いがすすまれました

08年3月には、東海・北陸、近畿の2会場で図上訓練が予定されています。

京都生協がレジ袋削減で「3R推進協議会」会長賞

京都生協の先進的なレジ袋削減の取り組みが評価され、2007年度「リデュース・リユース・リサイクル（3R）推進協議会」の会長賞を受賞しました。

「3R推進協議会」は、行政や消費者などが1991年に「リサイクル推進協議会」として設立し、2002年にリデュース（発生抑制）やリユース（再利用）も強化するために改称しました。環境保全に率先して取り組む個人や事業所を毎年表彰しています。

京都生協は83年にコープ下鴨店でレジ袋を有料化。91年から他店で、袋持参でたまるポイントで50円を還元するスタンプ方式を導入、96年からは府内23の全店でレジ袋有料化を実施しています。

京都生協は2007年4月にレジ袋削減で環境省の「容器包装3R推進環境大臣賞最優秀賞（小売部門）」を受賞しています。



表彰を受ける京都生協の笠谷敏子常任理事

おもな行事のお知らせ

2008年新春交歓会

主催：京都府生協連
 日時：2008年1月5日(土)12:00~13:10
 会場：コープイン京都2F
 (中京区柳馬場蛸薬師上ル)



京都府生協連と各会員生協の相互連絡防災通信訓練

日時：2008年1月17日(休)7:00~10:00
 内容：京都府生協連災害対策本部設置と立ち上げ、相互連絡防災通信訓練

「春をよぶ平和・憲法を考えるつどい」

共催：京都府生協連&京都生協
 日時：2008年2月2日(土)10:30~12:45
 会場：ハートピア京都3F大会議室
 内容：①ザ・ニュースペーパー公演

◎講演「100人の村、あなたもここに生きています」講師 池田香代子さん

2007年度京都府生協連監事・役職員研修会

主催：京都府生協連
 日時：2008年2月13日(木)13:30~16:00
 会場：コープイン京都2F(中京区柳馬場蛸薬師上ル)
 対象：会員生協監事、役員、職員
 内容：学習講演会「改正生協法対応課題、模範定款例等」(仮)
 講師：日本生協連改正生協法対策室

探訪 重要文化財 京都府庁 日本館を訪ねて

府民に開かれた府庁のシンボルとして公開中

京都府庁の日本館は2004年12月に竣工100周年を迎え、道府庁の旧庁舎としては全国で5番目の国の重要文化財に指定されました。これを機に後世にわたって保存していくとともに、府民に開かれた府庁のシンボルとして多くの方に広く公開していくこととなり、春・秋の京都御所の一般公開と同時期に公開していました。「ぜひとも常時公開してほしい」との声も多く、これにこたえ、2007年7月2日から毎日公開することとなりました。

日本館の外観はルネサンス様式に属し、正面の一段高くなった屋根を中心として左右両翼に対称に張り出した形になっており、西洋近世の大邸館をほうふつさせます。正面の入口を入り広間を抜けると、3連アーチ越しに中央階段があります。階段は京都白川の花こう岩を用い、手すりには草花の装飾を施した大理石がふんだんに使用されています。

旧知事室は2階の南東角の部屋で、東側の窓から比叡山を望む抜群のロケーションです。1971年までの67年間にわたり、24人の知事が使用しました。大理石の暖炉や重厚な廻り縁や格天井など、ほかの部屋よりいっそう手の込んだ造りとなっています。「正庁」室はおもに儀式や式典に利用され、凝ったシャンデリアや足場を組んでコテで当時の職人が手作業で塗ったしつこい見事な天井が目にとまります。(※「正庁」室は春と秋のみ公開)

京都府では、この正庁等を利用した府民との協働事業についてのプランを2008年3月まで公募しています。場所は正庁及び隣接の旧貴賓応接室等で、内容は公益性が高く、施設にふさわしい行催事等の企画。府との協働による利活用実証事業として実施するとしています。たとえば京都の伝統や文化・産業等をアピールする催し、地域力の再生を目指す催しなどです。

また、府庁第2号館の屋上も見どころのひとつです。「京てらす」と呼ばれているこの屋上緑化は、地球温暖化対策として、ヒートアイランド現象の緩和や都市環境の改善に効果があります。京都府では先導的なモデルとして、平日の9:00~17:00(11月から2月は16:00まで)に公開しています。



日本館正面



旧知事室。知事の執務机に往時がしのばれます



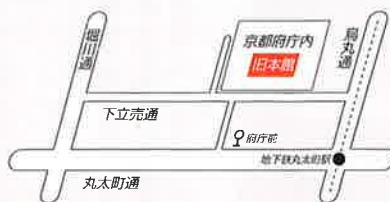
和歌山県の中学生在が見学に訪れていました



中央階段



「京てらす」はくつろぎの空間でもあります



●詳しい問合せ先は 京都府出納管理局資産活用プロジェクト
 ☎075-414-5435 ☎075-414-5432

Tan-bou
 CO-OP
 発行：京都府生活協同組合連合会 〒604-0851 京都市中京区烏丸東丸角 せいぎょう会館2階
 TEL:075(251)1551 FAX:075(251)1555
 URL: http://ma2.seikyone.jp/home/kyotofu/seikyoren E-mail: kyotofu.seikyoren@ma2.seikyone.jp